

□ 平成21年度 第2回図書館・文学館分科会 議事録要旨

日 時	平成21年12月15日(火) 18:30~20:35
場 所	荒川区役所3階 特別会議室
出席者	柳田邦男分科会長、山崎一穎副分科会長 齊藤泰紀委員、並木一元委員、戸田光昭委員、横山幸次委員 興野愛子委員、竹内 一委員 北川嘉昭委員、友塚克美委員、藤田満幸委員  [事務局] 飯田昌弘 総務企画課特命担当課長 佐藤泰祥 社会教育課長兼文学館調査担当課長 北村美紀子 南千住図書館長 坂入康弘係長、吉野友博係長、水野裕都係長、村木一貴主査 須田具子、石原久美江

1 分科会長挨拶

2 分科会の進め方について(事務局説明)

3 議事

- (1) 荒川区立図書館の課題
- (2) 図書館への利用者ニーズ
- (3) 最近の新設図書館の動向
- (4) 問題解決の方向性及び新たな図書館整備の考え方
- (5) [参考] 23区の中央館・中心館の状況

#### 4 意見交換

- 最近の図書館はスポットになっており、日曜などは人が大勢来て、新設のF図書館では雑踏のようにごったがえしている。それだけ、最近の図書館は市民に親しまれており、目についた大きな特徴の三つは、アクセス・利便性が良い、子ども読書活動推進計画・上野の国際児童図書館の刺激・読み聞かせボランティアなどによる児童書コーナーの充実、IT化である。
- 廃棄本の調整が必要であり、選書の調整もしなければならぬと思うが、基本的な参考図書はどうしても置かなくては行けないし、そうすると他の地域館と重複するものが出る。
- 探していた専門的な統計資料は荒川区の図書館にはなかった。足立区にはあったが、閉架のため現地に行かなければ見られなかった。U市中央図書館では、30万冊の半開架書庫棟の資料が閲覧できる。どのような開架・閉架が良いのかが問題になるのではないかと。
- 南千住図書館くらいの規模だと、無い本があるのかもしれない。規模はどうか。ハードもとても大切。最近の建物は無機質なものが多い。暖かさを感じる図書館にして欲しい。

K区中央図書館は整然と棚が並んでおり、「ゆったり」という説明があったが、冷たく感じる。「ゆったり」と「暖かい」は違う。

最近では閲覧席を多く確保する傾向にあるが、S市中央図書館のように閲覧席にプライバシーが確保されていないものは良くない。この点については、H市図書館が良い。椅子も肘掛けなどが重要であり、利用者のためにはどうしたら良いかを考える必要がある。

開架で20万冊以上が絶対必要だ。

絵本館については、併設の児童施設を削ってでも、日本一のものをつくれぬかと思う。

色々なコーナーは作るべきだが、ビジネス支援サービスについては、図書館で支援できるのか疑問だ。
- 広さや蔵書数を確保するため合理的に作ると、つまらなくなる。長野県U市の戦没学生慰霊美術館は、廊下に本も置いてある。机と椅子がパラパラと置いてあるが、そこで本を読んでいる姿が何とも言えず良い。日本の公園は読書空間とはなっていないが、パリなどではあらゆる人が公園で本を読んでおり、憩いの場となっている。
- I市民図書館には寝転んで読書できるなど、様々なくつろぎの場があった。「広い」が

必ずしも良いわけではない。

- 私は今、森鷗外の記念館に関わっていて、寝転がって読める場所を作ったと言ったら、笑われたけど。
- 様々な場所を提供するということだよな。
- 広い空間があるのがくつろぎではない。広い空間はときに威圧感がある。  
日本一とまでは言わないが、それくらいの誇りにして良いような特色を絵本館にすべきと考える。  
ビジネス支援サービスは必要なのか、と思う。自分でやる人は自分で行動するので、必要ないのではないか。国会図書館などに行けば良い。
- 区民はいろいろな解決したい問題がある。図書館は、本を通じて生活全般への支援をする場である。そのためにレファレンスの充実、職員の強化、図書館全体のシステムとしての調整が必要。
- 図書のデジタル化の波が進んでいる。デジタル図書は検索が優れている。バーチャル図書館も可能な時代になった。「本で調べる図書館」と「触って読む図書館」とは違うと思う。「本で調べる」は、例えば、コンテンツを購入するなどバーチャル図書館にするという手もある。「触って読む図書館」とするために、絵本を充実させるなどして、もっと本に触れ合える環境の整備が必要だ。
- 図書館では、片方ではインターネットで検索する人がいていいし、もう片方では本を触って読む人がいてもいい。そういった空間がちゃんと確保される必要がある。
- ICタグ、自動貸出機、自動書庫等のイニシャルコストとランニングコストは？
- 導入費用については、資料を整えて情報提供する。IT化を進めることにより、日曜日の貸出処理の行列の解消や、借りる本を見られないなどプライバシーが守られるメリットがある。閉架を自動にするかは議論が必要。
- スーパーも自動レジになっているが、私は正直使ってこなかった。最新の機器は便利だが、そのコストは、建物や本代の比ではないのではないか。  
今最新のものでも、技術の進歩で、導入の時期にはもう古いということもあるが、どこまで追いかけるのか。これまで、機器を導入した図書館では、どういう決断があった

のかが参考になる。

- 例えば、複数のエレベータがあるところで、なかなか来なくてイライラする状況があるとする。多額のソフトを入れて、複数のエレベータを上手にコントロールさせる方法もあるが、鏡や花を置くことでイライラを緩和させた例もある。  
導入を決めても、導入時期には古くなっている。お金をかけるだけが対策ではない。最先端の自動貸出機やICタグを入れても10年もたてば古い。しかも、コンピュータは費用が高い。図書館で行列ができるのならば、何人ぐらい並んで、どのぐらい待たせているのかを計測して、受付の窓口をいくつにする必要があるか分析が必要。
- ICタグについては、そんなに高いシステムではないが、実務的には棚卸しの日数が減らせるなどのメリットがある。IT化については、コストパフォーマンスを調査する。
- I市民図書館では、地方紙の調べ者室などは、書架が天井まである。このような所は背が高くてもいい。そのように整理すると平米当たりの蔵書が増える。  
一日小の学校図書館も「調べる図書館」と「楽しむ図書館」に分かれていた。すべての書架が低ければよい、という訳ではない。
- バーチャル図書館の例も参考に見たらどうか。
- 選択肢がたくさんあるのが、座席の配置、書架の高さ、現実とバーチャルなど、結局はいろんな人にとって居心地がいいという考え方が重要だ。
- U市図書館のような方法も一つのやり方であるが、開架があまりにも多すぎると、見る方も大変だと思う。いろんな利用の方法を考える必要がある。開架があって、深く調べるなら、半開架、閉架という流れなどがあっても良い。
- これまでの図書館は利用者が来るのを待っていたが、催しなどを行って打って出る機能も必要だ。例えば、1か月単位で作家の特集をしたり、セミナーや勉強会を行う。しかし、会議室では味気ないので、例えばI市民図書館のように階段のお話の部屋で行うなど。生身の人間が肉声と顔を見て、いろんな触れ合いをする場にして欲しい。特に児童図書館ではこれが大事である。
- ご提案のいくつかはこれまでもやっていたが、大きくメッセージとして出せるようにしたい。友の会みたいな形でボランティアに活躍していただく方法もある。

- 行政がやることを、費用が安くなるからボランティアに、というのはいけない。ボランティア本来の活動をしていただくための場所が必要。  
地域との連携だが、九州のある地域では絵本に力を入れているが、大学への通学路2～300mの中の商店街に絵本が置いてあり、本屋ではないがそこで絵本を買うことができる。そこが絵本ロードとなっている。  
図書館に行くアプローチに、誘惑されてそこに行くような環境整備が必要だ。一日小の話だが、踊り場には子どもに読んで欲しい人気の本が置いてあったり、廊下には感想文が張ってあったりなど、そこに思わず歩いて行きたくなるようなアプローチが重要。  
司馬遼太郎記念館では、地元の100人ぐらいのボランティアの方の協力で、500mぐらい菜の花ロードがあり、菜の花ロードを歩いていると思わず記念館に入ってしまうというような、そんな環境整備、アイデアが必要だ。
- 新しい施設は複合施設なので、それぞれの施設の相乗効果が生まれるようにしたい。
- ポツン、ポツンと机があって、そこに面白い本がさりげなく置いてあったり、無心で行っても刺激を受けるような施設にして欲しい。
- 図書館で実施したアンケートは対象が来館者のみなので、これだけでニーズを判断してほしくない。土日に朝から行ってみようかという図書館が絶対必要だが、アンケートの一日の滞在時間を見ると、とても短い。少なくとも半日は遊びに行けるような雰囲気はどうやって作るか、老若男女の方が一日居られるような施設を作らなければならない。そうすると、無機質のものや、整然としたものは、なんとなく居心地が悪い。
- 区民のうち図書館に行く人と行かない人の割合は？  
(→平成20年度図書館利用者は年間121万1614人。図書館登録者は51768人。荒川区民だけの住基人口に対する図書館登録者の割合は23.1%)
- 利用者のニーズだけで考えず、これまで図書館に来なかった人が来るような施設にして欲しい。
- 今の図書館は、そう長く居られるものではない。満足度調査は利用者の実態を把握するためのもので、これだけがニーズと考えているわけではない。
- 荒川区では、これまで座席をあまり用意しない方針であった。
- 意表をつくようなメッセージ、例えば、「自殺をしたくなったら図書館へ行こう」「子

どもと喧嘩したら図書館へ行こう」「がんが進行したら図書館へ行こう」など、本を読まない人の切実なニーズに応じていくキャンペーンを行ってはどうか。

- 荒川区の図書館では、司書である図書館非常勤職員が働いている。その人たちの考えを構想段階・設計段階で聞き、知恵を生かすことをやった方がいい。
- 電子図書館の機能は一定程度必要なのだろう。ただ、どの程度、どの規模でやるか。DVDやCDをどの程度揃えておく必要があるのか。マンガのコーナーもなくともいいのか。事務局の皆さんも、ここは重要視した方がいいとかの方向性があった方が、具体化していきやすいと思うが。

## 5 分科会長まとめ

次回までに事務局の方で、今日出された問題点を整理して、ハード、ソフトの部分に分類し、項目を挙げて、それに対応する費用対効果のデータをできるだけ集めてください。

また、こういう風にしたいという事務局側の発想も遠慮なく書いてもらい、それらをたたき台にしたい。

本日は活発なご議論、ありがとうございました。